佐賀県保険医新聞

発行所
佐賀県保険医協会
佐賀市駅前中央1-9-45
（三井生命ビル4F）
電話 0952(29)1933
FAX 0952(23)5218
HP http://saga-doc.jp
✉hoken-i@star.saganet.ne.jp
購読料　1部　200円
送料込　年間2,400円
（会員の購読料は会費に含まれています）

医科歯科合同研究会

口腔感染症から全身を守る歯科医療

～糖尿病から震災後肺炎まで～

5月7日（土）佐賀市アバンセにて、医科歯科合同研究会「口腔感染症から全身を守る歯科医療～糖尿病から震災後肺炎まで～」を開催いたしました。講師に西田亙先生（にしだわたる糖尿病内科院長・愛媛県）をお招きし、48医療機関より95名の参加がありました。

以下、参加者からの報告です。

西田 亙 先生

5月7日（土）、アバンセにて、愛媛県でご開業の西田亙先生（にしだわたる糖尿病内科院長）をお招きし『口腔感染症から全身を守る歯科医療』と題して、医科歯科合同研究会を開催した。

冒頭、西田先生は、「私は歯科医に救われた」と発言。ご自身が過去、メタボ状態に陥り、糖尿病予備軍であった事を告白。不整脈、高血圧等により、体調を崩す日も多かったそうである。当時は口腔内の状態も良いとは言えず、メタボ脱出のため、御自身の生活も見直しながら、歯科医および歯科衛生士の助けも借り、現在の健康を取り戻せたと話され、講演では、いくつかの症例を紹介された。

口腔感染症により重篤な症状を引き起こした場合、高齢者は、肺炎を併発して、死亡に至るケースもあると、震災後肺炎を例に挙げ、口腔ケアの重要性を説いた。また、歯周病治療を行ったことで、血糖値が下がった症例等も報告された。

近年、糖尿病が予備軍も含め激増しており、特に運動不足や食生活が重要な鍵を握っていることを強調した。

西田先生は「歯を見て体を診ず、体を見て口を診ず」と医師・歯科医師の日常診療での盲点を指摘。日常診療で患者さんの口腔内も診るようになり、地元歯科医師との連携で、糖尿病治療を行っているとのことである。

「国民が健康になるよう、歯科医にも、全身を診てほしい」と医療の在り方を熱く語り、「全身を守るには、まず口から」と強調。震災後肺炎を予防するために、「非常用持出品にハブラシを」と呼び掛けた。今回の講演は、大変分かりやすく、医科歯科連携の重要性を再認識させられる内容であった。

（良）

熊本被災医療機関の体験記

熊本地震で被災された熊本協会の4名の先生方から、地震発生後の取り組みや現在の心境などについてご寄稿いただきましたので掲載いたします。（4・5面）

医科 新点数 説明会 2016

新点数Q&Aとレセプト記載要領

4月28日（木）佐賀市アバンセにて、医科新点数Q&A説明会を開催いたしました。当協会役員と事務局が講師を務め、139医療機関より330名の参加がありました。

以下、参加者からの報告です。

今春、診療報酬の2年ぶりの改定が行われました。医科、歯科、薬科それぞれ評価された点、評価されなかった点もあり、各科の先生方さまざまな思いを抱かれておられることと思われます。

厚生労働省が数年をかけ練ってこられるであろう高齢化社会への対応をはじめ、変わりゆく社会現状を分析した上での点数の評価、また時には難解な改定の解釈を数カ月のうちに裏まで読み取った上で説明していただく各先生方、事務局の方々には、そのご苦労を思うと感謝の気持ちとよりよい医療を社会に提供できるように、日々また新たな気持ちで診療に向き合っていきたい気持ちでいっぱいです。

思えば、現在の医療現場には多くの問題点、矛盾点がまだまだ山積みされています。各科により、地域により、また各患者さん（さま）により、社会の様変わりについて行けないほどの多くの問題が山積みです。毎日多くの問題にぶつかりながら診療されているのは、どの先生も同じだと思います。その診療を支えてくださる、現場のスタッフ、介護現場の方々、皆様各人がそれぞれの思いを抱えていらっしゃると思います。全てが診療報酬制度、改定で解決するわけでもなく、しかし少しは現場の現状を反映した改定になるよう、おこがましいとは思いますが意見が言える改定になることを切望します。

今回の改定を踏まえて、また新たな問題点が掘り起こされますが、厚生労働省との見解にはタイムラグが生じます。よりよい医療・介護を社会に提供できますように、日々努力したい所存であります。現在は医療・介護を提供する立場ではありますが、自らが提供される立場もそう遠くない日ではないと思います。その立場になったときに、良い制度であるよう、改定がよりよき制度となる改定でありますよう願いたいと思います。

（鳥栖市　古賀　正哉）

主な記事

・第169回九州ブロック会議……2面
・ひまわり会例会「春のミニコンサート&交流会」……3面
・熊本被災医療機関の体験記……4～5面
・経営税務「熊本地震募金の税務上の取扱い」……6面
・共済部だより「保険医年金申込受付6月25日まで」……7面

協会会員数

医科	650人
歯科	335人
合計	985人

（4月30日現在）

曙

月刊保団連の4月号は「所得再分配が当り前の社会に」の特集が組まれていた。要するに社会保障を充実するということのようだ▼社会保障の充実と反対にあるのがアベノミクスということになる。第一の矢が金融緩和で利息ほとんどゼロ。第二の矢が財政出動で公共事業などの大盤ふるまい。第三の矢が経済活動を元気にすることで、国民の懐を豊かにするということらしい。第三の矢で豊かになった懐は超富裕層の懐のみであった。また大企業の内部留保が膨らんだのみで、サラリーマン勤労者には富は回らず、むしろ減った▼超富裕層も内部留保はウノ目、タカノ目で投資先を探すが、株は乱高下するのみである。国民の豊かな消費がないためにデパートやスーパーが成り立たず撤退する。するとその地域の消費はさらに冷え込む。これに消費税が追い打ちをかける。今回安倍首相は消費税増税を思いとどまったようだが、この消費税こそが社会保障と対極にある税制で、貧困層にも平等に税金がかかってしまう逆累進税である▼庶民の懐を温かく、貧困層をさらに貧困にするのでなくむしろ豊かにするためにも社会保障、医療保障の充実は欠かせないと思う。教育の充実、社会保障の充実こそが経済活動を元気にする要と考えるがいかがであろうか。

（ヤータン）